光葉同窓会メールマガジン

＜2026 年 10 月号＞　　231 号　2026. 10. 01 配信



　このたびの地震・豪雨で被災された会員並びにご家族の皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全確保と一日も早い復興を祈念しております。
　10 月になり学園内では、金木犀の輝く色と香りが秋の訪れを感じさせてくれます。夏の疲れが出やすい頃ですので、どうぞお身体を大切にお過ごしください。

（常任委員　浅野　千津子）

■同窓会だより

◇2027 年度光葉同窓会推薦入学試験のご案内

【光葉同窓会受付期間】2026 年 10 月 1 日（木）～10 月 9 日（金）
【出願期間】11 月 2 日（月）～11 月 6 日（金）
【問い合わせ先】昭和女子大学アドミッションセンター　03-3411-5154
・同窓生の推薦者 2 名が見つからない場合、同窓会へメールでご連絡ください。
・✉dousoukai@swu.ac.jp

◇生涯学習　《講演会》のご案内



【テーマ】今さら聞けない「健康食品」の基本のキ
　　～食品表示を読み解くリテラシー～
【講　師】昭和女子大学　管理栄養学科教授　調所　勝弘先生
【日　時】2026 年 10 月 17 日（土）13:00～14：30（受付 12：30～）
【場　所】昭和女子大学学園本部館 3 階　中会議室
【参加対象者】同窓会会員とその家族
【参加費】無料　【定員】40 名　【申込〆切】10 月 9 日（金）
【申込方法】件名に「生涯学習講演会」、本文に①氏名 ②卒年 ③卒学科 ④連絡先（日中連絡可能な携帯番号）を記載の上、光葉同窓会事務局に FAX または Mail でお申込みください。受付完了の返信を同窓会事務局からお送りします。（QR コードからアクセス可能）

◇2026 年度 第 34 回秋桜祭 ～光葉同窓会も参加します～

【開催日時】2026 年 11 月 14 日（土）・15 日（日）10：00～15：30
【会　　場】3 号館 1 階 IS02・IS03 教室
○全国支部バザー（同窓会支部から寄せられた日本各地の名産品や手作り品の販売）
○同窓生有志による出店販売（アクセサリー・手作り雑貨など）
○子どもコーナーの開催（くじ引き・スーパーボールすくい）
秋桜祭初日のホームカミングデーに参加される皆様、この機会にぜひ光葉同窓会会場にお立ち寄りください。ご来場をお待ちしております。
★お手伝いボランティアの募集
秋桜祭でお手伝いいただける同窓生を募集します。11/14・15（午前・午後）の 2 日間でご都合のつく日、時間でお申込みいただけます。（お申し込みは同窓会事務局まで）

◇支部会開催のお知らせ

10 月　3 日(土)　富山県支部会　　10 月 4 日(日) 佐賀県支部会／渋谷・目黒支部会
10 月 10 日(土)　鹿児島県支部会　　10 月 11 日(日)　愛知県支部会
10 月 24 日(土)　埼玉県支部会／神奈川県支部会／世田谷支部会
10 月 25 日(日)　東京都多摩東支部会／兵庫県支部

◇お問い合わせ：光葉同窓会事務局　03 - 3421 - 7713　✉dousoukai@swu.ac.jp
10：45～16：15（土・日・祝日除く）

■学園だより

◇ホームカミングデー(大学との共催)のご案内　11 月 14 日（土）11 時～13 時 30 分
対象の学年の方にはご案内状が送付されています。事前申し込み制です。
ご参加には封書内のハガキにて、10 月 14 日（水）必着でお申し込みください。

■広げよう光の葉

田中夏陽子（石王丸）さん　　1994 年 3 月　日本文学専攻（院・博士前期）修了
1997 年 3 月　　同　　（院・博士後期）満期退学

「万葉のふるさと・高岡でお会いできる日を楽しみに」



私が万葉集の世界に惹かれた原点は、大和和紀さんの漫画『天の果て地の限り』でした。万葉歌人として名高い額田王が自立した可憐な女性として描かれ、その姿に小学生の私は強く心を奪われました。のちに源氏物語の世界を描いた漫画『あさきゆめみし』へとつながるこの作品が、私の進む道を決めたと言ってよいと思います。

昭和女子大学では日本文学科で上代文学を専攻し、学部では、升田淑子先生、烏谷知子先生に、大学院では尾崎暢殃先生、阿蘇瑞枝先生、藤原忠美先生に師事しました。研究の傍ら、当時は東京都品川区戸越にあった文部省の国文学研究資料館で非常勤研究員として源氏物語データベースの仕事にも携わりました。そして 1999 年、万葉集を専門とする国内随一の博物館である富山県にある高岡市万葉歴史館の研究員として、公募で採用されました。

現在は「牧野富太郎と万葉集」「万葉集と源氏物語」「小泉八雲と万葉集」など、NHK の朝ドラや、大河ドラマと万葉集を結ぶ企画展を担当しています。

また、地元の国学者で万葉集愛好家でもあった五十嵐篤好(あつよし)の歌集を翻刻し、その解釈を進める研究にも取り組んでいきたいと思っております。

万葉集は雑多で自由な歌集です。だからこそ、その時々の心に寄り添い、読むたびに新しい表情を見せてくれます。中でも越中万葉は、大伴家持が 29 歳からの 5 年間、越中国守(今の富山県知事相当の職)として奈良から赴任し、223 首もの歌を残した特別な歌々です。万葉歴史館のある伏木(ふしき)は、大伴家持が多くの秀歌を生んだ地で、越中は家持の歌心を育んだ場所でもあるのです。最後に、私の好きな越中万葉歌を一首。

我が背子(せこ)が　古き垣内(かきつ)の桜花　いまだ含(ふふ)めり　一目見に来(こ)ね（18・4077）

越前へ赴任した部下・大伴池主(いけぬし)に家持が贈った歌で、別れの寂しさと温かな情がにじむ一首です。

万葉歴史館へ、ぜひ気軽に見学にいらしてください。出勤日であれば、可能な限りご案内いたしますので、気軽に受付で声をかけてください。近くには雨晴(あまはらし)海岸という人気の景勝地もあります。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。【End】